

1

3年間の計画

	目標	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	平成31年度 (2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	② 様々な分掌で定期的な連携の場をつくる ① 3校の取り組みや実態を把握する	① いずれかの分掌でブロック会を行う。 (生徒会・児童会か外国語) ② 管理職や事務職員を含んだ連携会議を開催する。 ③ 北陵ブロックの子どもの実態を分析する。	① 北陵ブロック授業スタンダード案を考える(研究授業等で) ② 1分掌以上で定期的なブロック会を行う。 ③ 小中で子どもが連携している行事を行う。(続けて取り組めるもの)	① 連携が必要な分掌を精査し、定期的な連携ができている。 ② 北陵ブロック授業スタンダード案を実践した研究授業を行う。
確かな学力の育成	進んで学習することを目指す。 ① 基礎・基本の定着をはかり、	① 朝学(国・算)・ワクドキ(習熟度別学習)で基礎学力を定着する。 ② 授業ではできるだけ児童同士交流する機会を設け、いろんな意見を出す。 ③ 朝会(全校スピーチ)での発表と意見交流を充実する。 ④ 演劇コミュニケーション教育で自分の考えをみんな前で表現できるようにする。 ⑤ 外国語活動の取り組みでは、系統的なカリキュラムを作り、基礎学力の定着をはかる。	○学力向上推進計画の検討 ○学力向上推進体制の構築 ○研究授業の実施 ○研修会の実施 ○平成29年度の結果を踏まえた計画の評価及び見直し	○学力向上推進計画の検討 ○学力向上推進体制の構築 ○研究授業の実施 ○研修会の実施 ○平成30年度の結果を踏まえた計画の評価及び見直し
豊かな人間性を育む	通して、児童の道徳性を育む。 道徳の授業を基盤とし、すべての教育活動を	① 道徳の授業を内容項目の漏れがないよう35時間しっかり行う。 ② 児童の成長が分かるように道徳の授業で児童が考えたことを残す。(ワークシートなど) ③ 道徳の授業の資質向上を目指し、低・高学年に分かれて、交換授業を行う。 ④ 道徳の授業で、児童の意見を聞き逃さないために低・中・高に分かれて、合同授業を行う。(T・T形式) ⑤ 道徳的価値を意識しながら、道徳以外の教科の授業を行う。	○道徳の年間計画の作成 ○授業での様子や児童が考えたことを残したワークシートなどを参考に評価する。 ○研究授業の実施 ○研究会の実施 ○平成29年度の結果を踏まえた計画の評価及び見直し	○道徳の年間計画の作成 ○授業での様子や児童が考えたことを残したワークシートなどを参考に評価する。 ○研究授業の実施 ○研究会の実施 ○平成30年度の結果を踏まえた計画の評価及び見直し

健康・体力の増進	運動に親しみ、たくましく生きる子どもたちを育てる	☆運動習慣の定着 ①体育における授業の工夫 ・少人数でも楽しめる教材の開発 ②体力テストの実施 ・年1回（5月）実施し、結果をもとに、自分自身の生活を見直す機会等とする ③今年度新たに中庭に設置した運動施設の活用 ・一輪車練習用の補助スタンド、カラーコーンを利用した簡易ハードル、的当て、ラダー ☆体力づくりの充実 ①水泳指導による泳力向上 ・各児童の泳力に応じたメニューを設定し、スモールステップによる練習の工夫 ②全校で取り組む運動週間 ・マラソンやなわとび週間の実施	○体力向上推進計画の検討 ○体力向上推進体制の構築 ○平成29年度の結果を踏まえた計画の評価及び見直し	○体力向上推進計画の検討 ○体力向上推進体制の構築 ○平成30年度の結果を踏まえた計画の評価及び見直し
支援教育の充実				

2 今年度の結果と取組みについて

全国学力・学習状況調査、全国体力・運動能力、生活習慣調査の結果につきましては、児童数が少ないため公表いたしません。

〇●学力向上の取組み●〇

取組み

- ① 茨木っ子版授業スタンダードを基に「少人数を生かした忍頂寺小学校の授業」づくり。
 - ・授業の中で5つの活動（ゆめ力的活動・自分力的活動・つながり力的活動・学び力的活動・元気力的活動）の実践。特に多様な意見の出し方、交流の方法を考えた授業づくりを行う。
 - ・授業では児童同士交流し、いろいろな意見を出し合い自らにフィードバックする機会を設ける。
 - ・少人数の長所を生かした、個々の児童に応じた、きめこまやかな授業の実践。
 - ・1年生から6年生までの公開授業研究の取り組みによる授業改善。
 - ・巡回相談やSC、SSWを活用し児童一人ひとりの課題を的確に把握し授業に活かす。
 - ・各種研修会に参加し教師の授業力をアップ。
- ② 基礎基本の定着。
 - ・学年ごとの朝の学習時間（計算・漢字）の充実。課題の精選。繰り返し学習の徹底。高学年の外国語のモジュール導入。
 - ・「ワクドキの時間」（4年生から6年生の習熟度別学習）による個人の課題克服を図る。
 - ・辞書引き学習の推進。
- ③ コミュニケーション力の育成。
 - ・演劇コミュニケーション教育等に取り組み、児童のコミュニケーション力を育成する。
 - ・5・7・5作文、俳句活動に取り組み言葉への関心を高め、表現力を育成する。また、公募に応募し創作意欲を高める。
 - ・朝会等の児童発表（全校スピーチ）では意見を双方向で出し、聞く話す活動を充実する。
 - ・テレビ会議などICTを活用し意見発表、交流の場の設定。
 - ・同じ中学校区の小学校をはじめとする、他校との交流の機会を積極的に計画し、児童のコミュニケーション力を育成する。
- ④ 読書活動の充実
 - ・図書館支援員を活用し図書教育の充実を図る。環境整備 情報発信。図書館支援員と図書館部の連携強化。
 - ・少人数の利点を生かし、一人ひとりにあったお勧めの本の紹介をするなど読書に興味を持たせ、読書月間を設定し読書量を増やす。
 - ・読み聞かせボランティアの活用。
 - ・児童による各種の公募「本の帯創作コンクール」などに応募し、自ら読書に親しむ環境を整える。
- ⑤ 安心な学校学級づくり
 - ・人権教育の充実を図り、地域との連携した取組み等を通して、安心して過ごせ学べる学校づくりを行う。
 - ・巡回相談やSC、SSWを活用し、一人ひとりの課題を見通した学級学校づくり。
 - ・天災や震災に対応できるよう、校内だけでなく地域との連携を高めていく。

○●子どもたちに育みたい力●○

取組み

次に示す取組みにより、茨木っ子グローイングアッププランの5つの力を育む

- ① ゆめ力 ・・・校内研究目標として道徳を設定し、講師を招いて計画的に継続して授業研究を実施し、道徳教育の充実をはかる。学校外の講師を多く招き、いろいろな職業に触れさまざまな体験を行い、将来の夢や目標をはぐくむ。
- ② 自分力 ・・・学校便り、保健だより等で生活習慣についての啓発を行う。
中学校区で連携して道徳教育の充実をはかり、いじめを許さない心や規範意識を育てる。(道徳合同授業研、研修会による指導力の向上)
演劇活動を通じて、表現力、コミュニケーション力の向上をめざす。
- ③ つながり力・・・家族やクラス、学校の一員として役割を担い責任を全うすることの大切さを学ぶ。
一つひとつの行事等で協力や達成感を味あわせる。異年齢集団での活動等を通じて人間関係を積極的に築く力を育成する。
- ④ 学び力 ・・・なぜ学ぶのか、授業ごとのめあてを明確にするなど、学ぶ意欲の向上を図る。
決まった課題(宿題)以外の自主的な学習に主体的、計画的に取り組ませる。
- ⑤ 元気力 ・・・体育の授業改善をすすめ、子どもが楽しいと感じる授業づくりや、茨木っ子運動を活用して、体力向上をめざす。関係機関と連携した交通安全、防災教育をすすめ、身を守るワークを実施する。食育を大切にし、健康を保持増進できる規則正しい生活習慣を育む。

○●体力●○

取組み

- ① 学校での記録やスポーツテストを活用し自分の体や体力の変化について知り、運動に対する意識を高める。
- ② 体育の授業で達成感を持たせスポーツの楽しさを体感させる。ニュースポーツの紹介など児童が興味を持って取り組めるようにする。また、学年合同の体育など少人数を補う体育の授業づくりを行う。
- ③ 「茨木っ子運動」を活用し、体幹を鍛える。
- ④ 中庭を活用し、朝や放課後に自主的に身体を動かすことのできる場所作りを行う。また、児童会活動を生かし、児童の自主的な取り組みを行う。
- ⑤ 縄跳び週間やマラソン週間の実施。
- ⑥ 学生など外部講師を招き、運動に対する興味づけを行う。